様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22 年　5 月　1 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007　～　2009
課題番号：19730408

研究課題名（和文）育児期家族における家計収入・管理に関する夫婦間相互調整の研究

研究課題名（英文） Marital Relationships and Their Financial Management in the Household Economy with Rearing Children.

研究代表者
神谷　哲司　（KAMIYA TETSUJI）
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：60352548

研究成果の概要（和文）：

本研究は，家族発達理論における夫婦間の相互調整について，家計における貨幣配分のタイプに着目し，家計意識や夫婦の関係性とあわせて検討することを目的とした。2 回にわたる質問紙調査の結果，家計に対する意識の構造とそれらが結婚満足度や共感的コミュニケーションと関連していること，貨幣分配タイプに関する夫婦間の相互調整は，夫婦双方の「理想」も含めて夫婦間で交渉が行われ，夫婦関係における日常的な行動のパターンとして形成されていくことがうかがわれた。

研究成果の概要（英文）：

This paper examines the mutual adjustment of married couples in terms of their financial management of the household economy, especially regarding their psychological attitudes toward monetary arrangements (i.e., who earns, controls and allocates the money). Results from questionnaires administered two times showed as follows. It was clarified structure of attitudes to household economy, which were correlated with marital communication or their satisfaction of marriage. The mutual adjustment of married couples with regard to financial management involves a process of establishing a mutually harmonized relationship according to their ideal monetary arrangements.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	800,000	0	800,000
２００８年度	600,000	180,000	780,000
２００９年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,000,000	360,000	2,360,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・教育心理学
キーワード：家計収入，家計管理，夫婦，性別役割分業，ジェンダー，結婚満足度，育児期，コミュニケーション

１．研究開始当初の背景

育児期夫婦の親役割相互調整に関する研究では，夫婦の「伴侶性」が重要であるとの示唆が得られている。また，親役割の分担は妻の就労や夫婦の家計収入の程度と関連していることが示唆されているとともに，一方で，家計費管理については未だ妻の役割として認識されており，性別役割分業が残存していることが指摘されている。これらのことから，育児期夫婦の家計収入・管理に着目し，育児期夫婦がどのような家計管理を行っているのかについて，家計収入のパターンや，家計管理のタイプといった側面から明らかにすることが可能であると考えられた。

２．研究の目的

本研究は，上述のような観点から，育児期夫婦の家計収入・管理に着目し，それらの様相を明らかにすることを目的とするとともに，夫婦の関係性(コミュニケーション，結婚満足度)との関連と併せて検討し，家計費の収入と管理が夫婦にとって持つ意味を探ることを目的とした。

具体的には，質問紙調査を２回実施した。

第１次質問紙調査では，家計経済研究所による先行研究を参考にしつつ，家計収入管理のタイプと結婚満足度及び家計に関する意識や結婚満足度との関連について明らかにすることを目的とした。

第２次質問紙調査においては，夫婦間の家計収入管理と家計に対する意識やコミュニケーション態度との関連を中心に検討することを目的とした。

３．研究の方法

質問紙調査法による。第１次調査と第２次調査と，２回行っているが，具体的な対象者(調査依頼先)は異なる。第１次調査はＡ県Ａ市内にある保育所３園を通じて園児の保護者に質問紙を配布・回収した。第２次調査はＡ県Ｃ町内にある保育所 12 園を通じて同様に質問紙調査を実施した。第１次調査は，369 家庭に質問紙を配布し，174 家庭から回収された(回収率 47.2%)。第２次調査では，配布数 489 組，回収数 276 組(回収率 56.4%)であった。

４．研究成果

主な結果は以下の通り。

（１）家計に関する意識については，「家計の透明性」「稼ぎ手の権威」「愛情主義」「家計の統一性」など６因子が抽出され，「家計の透明性」が高いほど，また「稼ぎ手の権威」が低いほど，夫婦ともに結婚満足度が高いことが示されていた(table1)。

table.1 家計意識と結婚満足度の重回帰分析

	＼結婚満足度 家計の意識＼	妻 r		妻 β		夫 r		夫 β	
妻	F1家計の透明性	.24	***	.37	***	.24	**	.22	**
	F2稼ぎ手の権威	−.12	†			−.07			
	F3愛情主義	.26	***	.21	**	.13		.16	*
	F4家計の統一性	−.09		−.25	***	.04			
	F5共働き支持	−.02				−.05			
	F6家計の不自由さ	−.13	*	−.20	**	−.16	*	−.18	*
夫	F1家計の透明性	.11				.11			
	F2稼ぎ手の権威	−.25	**	−.21	**	−.23	**	−.17	*
	F3愛情主義	.03				.12			
	F4家計の統一性	−.01				.01			
	F5共働き支持	−.03				.01			
	F6家計の不自由さ	−.20	**			−.20	*		
	R^2			.30				.15	

† p<.10, * p<.05, ** p<.01, *** p<.001

（２）さらに，「家計の透明性」は夫婦双方の共感的コミュニケーション態度と正の関連が見られたほか，妻の「愛情主義」は夫婦の共感，依存・接近的な態度，夫の「稼ぎ手の権威」は夫から妻へのネガティヴな態度と関連し，家計に関する意識と夫婦間コミュニケーションとの関連が明らかとなった。

（３）親役割観の相互調整と同様，家計収入・管理タイプに関しても夫婦間の認識は必ずしも一致しておらず(table.2)，またその異同は結婚満足度とは関連していない。

table2　貨幣配分タイプの実際についての妻と夫の回答のクロス表

妻回答 ＼ 夫回答	手当	委任	一体	夫財布主張	妻財布主張
手当タイプ	8	2	0	0	0
委任タイプ	0	23	1	0	0
一体タイプ	1	0	49	0	3
夫財布主張タイプ	1	0	0	12	0
妻財布主張タイプ	0	1	4	0	1
扶養タイプ	0	0	9	0	2
支出分担タイプ	0	0	0	2	0
拠出タイプ	0	0	0	1	2
その他	0	0	0	0	0
合計	10	26	63	15	8

妻回答	扶養	支出分担	拠出	その他	合計
手当タイプ	1	0	0	1	12
委任タイプ	0	0	0	0	24
一体タイプ	7	0	0	0	60
夫財布主張タイプ	1	1	4	0	19
妻財布主張タイプ	1	0	0	1	8
扶養タイプ	5	1	2	1	20
支出分担タイプ	0	18	2	1	23
拠出タイプ	3	1	2	0	9
その他	0	2	0	5	7
合計	18	23	10	8	182

（4）家計管理のやり方についての満足度は妻よりも夫の方が高く，現在のやり方について変えたいと思っているのも夫よりも妻の方が高いことが示されていた(table.3)。

table.3 家計収入・管理に関する夫婦の関係性認識

	妻 Mean SD	夫 Mean SD	r		t値	
1今の管理の仕方については夫婦共に納得していると思う	3.37 0.67	3.27 0.78	.40	***	1.64	
2家計の管理について夫婦二人でじっくりと話し合ったことがある	2.84 0.88	2.75 0.92	.29	***	1.08	
3家計管理に関して，相手(配偶者)からの申し出によって話し合った	2.32 0.90	2.33 0.95	.12	†	−0.06	
4家計管理に関して，自分から相手(配偶者)に申し出て話し合った	2.34 0.95	2.25 0.96	.14	†	0.95	
5家計管理については，相談することなく，相手(配偶者)の決めたやり方に従っている	1.64 0.76	2.30 1.06	−.09		−6.75	***
6家計管理については，相談することなく，自分の決めたやり方に従ってもらった	1.93 0.91	1.69 0.82	.09		2.86	**
7家計管理について，特に話し合ってはいないが，なんとなく今のようなやり方に落ち着いた	2.90 1.09	2.85 1.06	.32	***	0.58	
8家計収入に関することが原因で，夫婦ゲンカをしたことがある	2.06 1.07	2.03 1.02	.50	***	0.41	
9家計管理に関することが原因で，夫婦ゲンカをしたことがある	1.95 1.03	2.04 1.02	.43	***	−1.20	
10家計に関することで，相手に言いたくても，言えないことがある	1.91 0.95	1.94 0.95	.21	**	−0.31	
11家計に関することで，夫婦でケンカはしたくないと思う	3.49 0.81	3.47 0.77	.20	**	0.22	
12現在の家計管理のやり方について，あなたは変えたいと思っているところがある	2.27 1.05	2.05 0.97	.08		2.22	*
13現在の家計管理のやり方について，あなたは満足している	2.76 0.92	3.07 0.84	.13	†	−3.69	***
14家計管理に関しては相手(配偶者)以外に，ほかの家族(子どもの祖父母等)の意見も反映されている	1.69 0.95	1.89 0.98	.30	***	−2.49	*

† $p<.10$，* $p<.05$，** $p<.01$，*** $p<.001$
df=181~190

（5）夫婦間の貨幣配分のタイプの異同については，夫婦それぞれの実際と理想が一致しているかどうかが関連しており(table.4)，貨幣配分タイプに関する夫婦間の相互調整は，それが夫婦関係における日常的な行動のパターンとして形成されていくのみならず，そこで自分がどのようにしたいのかという理想をも含めて夫婦間で交渉が行われることがうかがわれた。

table.4 貨幣配分タイプの実際と理想に関する夫婦間対応

妻貨幣配分タイプ＼夫の貨幣配分タイプ	一致	不一致	合計
一致	57	25	82
不一致	34	49	83
合計	91	74	165

$\chi^2(1)=13.59$　$p<.001$

（6）さらに本研究では，夫婦間コミュニケーションに関して補足的に，従来の研究で見落とされてきたその質的な側面に着目し，「あいさつ」や「会話内容」についても取り上げた。

あいさつについて言語的な側面に着目すると，「おはよう」「いってきます」といった「節目の日常あいさつ」と，「ありがとう」「ごめんなさい」といった「パートナーへの謝意・気遣い」に分類された。夫婦のこれらあいさつ行動は結婚満足度に関連しているだけではなく，日常生活における経済的なゆとりのなさとも負の関連が見られていた(table.5)。

table.5 あいさつ行動と夫婦関係，生活意識との関連

		妻 節目の日常あいさつ		妻 パートナーへの謝意・気遣い	
妻	非言語コミュニケーション	.25	**	.60	***
	夫婦関係満足	.23	**	.28	**
	育児生活のストレス	−.11		−.11	
	育児肯定感	.26	**	.16	†
	経済的なゆとりのなさ	−.04		−.21	*
	時間のゆとりのなさ	−.01		−.08	
夫	非言語コミュニケーション	.06		.19	†
	夫婦関係満足	.28	**	.17	†
	育児生活のストレス	.00		.07	
	育児肯定感	.08		.02	
	経済的なゆとりのなさ	−.09		−.11	
	時間のゆとりのなさ	.05		.00	

		夫 節目の日常		夫 パートナーへの	
妻	非言語コミュニケーション	.28	**	.46	***
	夫婦関係満足	.20	*	.35	***
	育児生活のストレス	−.14		−.25	*
	育児肯定感	.12		.08	
	経済的なゆとりのなさ	.01		−.11	
	時間のゆとりのなさ	−.14		−.20	*
夫	非言語コミュニケーション	.32	***	.68	***
	夫婦関係満足	.21	*	.39	***
	育児生活のストレス	−.17	†	−.08	
	育児肯定感	.19	*	.17	†
	経済的なゆとりのなさ	−.24	*	−.17	†
	時間のゆとりのなさ	−.06		−.10	

† $p<.10$，* $p<.05$，** $p<.01$，*** $p<.001$

また，会話内容に関する分析では，話題に上る頻度として高かったのはやはり，子どもの日常的生活に関するものであった。また，すべての話題における夫婦間相関は，「(子どもからみた)祖母や祖父に関する話題」のみ r=.13 と有意傾向を示していたが，それ以外は r=.20～.56 と低度から中程度の値で有意

であった。さらに，夫婦間で平均値に差がみられた項目に着目してみると，「日常的な家庭での子どもの姿に関する話題」や「職場や外出先での「妻」の出来事」「子どもの将来に関する話題」の 3 項目で夫より妻の頻度が高く，「「夫」の悩みや不安に関すること」では，妻よりも夫の方が有意に高かった。妻自身や子どもの話題については，夫は妻ほどには話をしていないと認識し，夫自身の悩みや不安については，夫が思っているほど妻は話題に上っていないと認識しているようであった。

以上より，家計の収入管理に関する夫婦間相互調整については，どの家族においても一定のタイプに収束するというよりも，夫婦サブシステム外部からの影響や，理想水準にみられるような夫婦関係そのものに対する自己評価的側面をも含み，ダイナミックに変動していくものであることが示唆された。

また，補足的に扱われたコミュニケーションの質的側面については，今後さらなる分析を深め，家計収入管理におけるコミュニケーションとその支援のあり方について検討を進めることとなっている。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

1. 神谷哲司　育児期夫婦における家計の収入管理に関する夫婦間相互調整．東北大学大学院教育学研究科研究年報,58(2) 2010 年.(印刷中)　査読無

〔学会発表〕（計 3 件）

1. 神谷哲司　育児期夫婦における家計に関する意識と結婚満足度との関連．日本発達心理学会第 21 回大会(神戸).2010 年 3 月 26 日
2. 神谷哲司　育児期夫婦における家計収入・管理の実態と意識．日本発達心理学会第 20 回大会(東京).2009 年 3 月 25 日
3. 神谷哲司・田丸敏高　育児期夫婦における生活のゆとりのなさの認識とストレスとの関連－妻の就労形態による相互比較－．日本発達心理学会第 19 回大会(大阪).2008 年 3 月 21 日

〔図書〕（計 1 件）

1. 神谷哲司　「育児する親」とジェンダー．柏木惠子・高橋惠子(編)『日本の男性の心理学』有斐閣 pp.185-190. 2008 年

〔その他〕
1. 神谷哲司　「子育て家族の経済と生活の意識に関するアンケート調査報告書」パンフレット(B5 版フルカラー16 ページ) 2010 年
(A 県 C 町における質問紙調査のフィードバック用報告書)

６．研究組織
(1)研究代表者
神谷　哲司（KAMIYA TETSUJI）
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：60352548

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし